

令和元年度 京都府立木津高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (実施段階)

| 学校経営方針(中期経営目標) | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営計画) |
|---|--|--|
| <p>「高校生活3年間で生徒の能力を最大限に伸ばし、将来展望を持たせ、進路を決めて卒業させる」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域との連携を深めた特色ある学校づくりを推進する。 2 教育活動をととして、規律ある行動とコミュニケーション能力の向上を図り、自分を大切に、他者を思いやる心を育てる。 3 生き生きとした学習活動を公開し、地域から信頼される学校づくりを推し進める。 4 自己理解を深めるとともに、目的意識を高めさせ、自らの進路を主体的に切り開く能力や責任ある行動力を身につけさせる。 5 学習環境の整備や教職員の資質向上に努め、学校の評価を高め、信頼される学校づくりを推し進める。 | <p>平成30年度は前年度の成果と課題を踏まえ教職員が一丸となって本校の教育活動を前進させることができた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 広報等について 本校の教育活動を正しく、広く理解してもらうための広報活動を積極的かつ効果的に行うことができた。また中学校教員向け説明会や平日夜の保護者説明会も定着してきており、工夫ある学校案内等も制作している。今後さらに魅力ある広報活動を展開し、中学生に「第一希望」として選ばれる学校づくりを進めていきたい。 2 進路指導について 平成30年度から新設された「特進エリア」の進路指導体制を定着させることをととして、組織的な進路体制の構築が進んだ。また、就職希望者への指導の徹底により、内定率が向上し、加えて最後まで粘り強い指導を行えた。 3 地域連携等について 地域との連携については、専門学科の活動や連携コースでの取組により確実に充実・発展してきている。今後は、地域貢献から「地域参画」にシフトを変え、地域の小・中学校や地域自治体及び企業とさらに連携することが課題である。 4 規範意識に関する取組について 生徒指導部を中心に、身だしなみ指導を強化して、帰属意識の定着を図ることができた。今後、教科指導を粘り強く行い、生徒の学力向上を図ると共に原留・中退等を減少させ、生き生きと充実した高校生活の充実を目指したい。また、部活動、清掃活動等を充実させ、規範意識の確立や帰属意識をより高めるための取組をさらに進めていきたい。 | <ol style="list-style-type: none"> 1 創立118年を迎える「風かほる伝統校」木津高校の新たなスタートと位置づけた平成31年度、今後10年を見据えた普通科のエリア・コースを発展的に見直し、体系的な学習指導・進路指導を推進する特進エリアをスタートさせた。引き続きスタンダードエリアにおいて、対話的で深い学びを体現できるコースを進化させ、新学習指導要領の趣旨に対応させたコースの創造を図る。専門学科2学科については、グローバルGAPとエシカルビジネスをキーワードに、本校ならではの生産から消費までを視野に入れた取組の発展・深化を推進する。 2 生徒の希望進路の実現を第1に、入学から卒業までを体系的に捉え、一貫した指導の下、学力の向上を図る。進学・就職共に強い進路指導体制の充実を図るとともに、粘り強い学習指導を通して原留・中退・転学等を限りなく0に近づける指導を徹底する。 3 部活動の加入率70%以上を目指し、部活動のさらなる活性化を図る。また、学校行事に積極的、主体的に取り組むよう常に工夫・改善に努め、学校生活の一層の充実を図るとともに、生徒・保護者の学校満足度のさらなる向上を目指す。 4 清掃活動を自己研鑽の中心に位置づけ、心身の健全な発達と母校を愛し、誇りの持てる高校生活の醸成を目指す。また、あいさつを励行し、ボランティア活動の一層の推進や地域連携、地域行事への積極的な参加等をととして、118年の歴史を誇る本校の建学の精神である地域に愛される、地域の高校としての存在感を高める。 5 引き続き工夫を凝らした広報活動を積極的に展開し、本校の特色ある教育活動を正しく、広く理解していただくとともに、積極的に授業、学校行事を公開し、地域に開かれた学校としての取組を推進する。 6 自他を大切にすること人権感覚の育成に重点を置くとともに、身だしなみ違反や遅刻の根絶等、基本的生活習慣を確立する。また、全員が安心して安全な高校生活をおくれるよう規範意識の確立と授業規律を徹底し、教育環境を整備する。 |

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

| 分野 | 評価領域 | 重点目標 | 具体的方策 | 評価 | 成果と課題 |
|-----|------|---------------------------------|---|-------------|---|
| 教務部 | 修学保障 | 原級留置・中途転退学者数を限りなくゼロに近づける。 | 欠席過多生徒・成績不振の生徒に対する指導について学年部のみではなく、各教科担当との連携を密にし、昨年度人数より減少を目指す。各学期末において、成績会議を開催し、各生徒の成績状況の情報共有を図るとともに、成績不振生徒に対する丁寧な学習指導に力を入れる。課題を抱える生徒への面談やアプローチの仕方について、より効果的な実施の仕方、時期を検討する。 | 2 3 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・5月追認の可否結果の割合においても1学期の成績不振の割合に関してもこの3年間横ばい状態であり、改善策を講じる必要がある。 ・授業規律は、2学期に公開・研究授業週間や授業アンケートを実施して改善を図り、学力向上につながった。 欠席時数の多い生徒へは、1/7オパ-10 |
| | 学習指導 | 授業規律を確保するとともに、授業改善を推進して学力向上を図る。 | 授業改善につながる取組(公開・研究授業週間、授業アンケート等)を効果的に実施し、授業改善を通じて学力向上につなげる。 | 3 3 | |

| | | | | | | | |
|-------|-----------------------------------|--------------------------------|---|---|---|---|---|
| | | | 学力向上につながる取組を他分掌と連携して効果的に実施する。 | 2 | | 3 | 単位上、または1/5オーバーが1単位あれば、通知文書を保護者へ送付し、早い段階で欠席数を把握してもらうようにしている。成績不振生徒に対しては、12月に面談し、2学期中間以降、学年部で適宜面談等を行ってもらいつつ、卒業の厳しい生徒については教務部長による面談を特別に行った。また、定期考査ごとに成績不振者の一覧を作成し、全教員が情報共有しできるようなシステムにより、成績不振及び欠課時数過多の生徒に早期からアプローチすることができた。 ・教務の手引きについては、大きく変更を行い、見やすく、またわかりやすく改善できた。 |
| 学校運営 | 学校運営上のマニュアル、手引き、各種届け書等の見直しを図る。 | | マニュアル、手引き、各種届け書等の見直しを図り、全教職員が効率的に作業ができるようなルールづくりを行う。 | 3 | 3 | | |
| 生徒指導部 | 生徒指導 | 基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成を目指す。 | 社会の一員としての自覚を育てるために、定められた時間に登校できるよう毎朝校門にて、あいさつ運動とともに遅刻防止指導を行う。 | 3 | 3 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> 遅刻防止指導として、遅刻が規定の回数を超えた生徒は生徒指導部で面談指導と書写などの指導を行った。一定の成果が出ているが、一部の生徒は遅刻が減少しない状況があるので、次年度は学年部と連携して指導に当たっていく。 身だしなみ指導は昨年度よりも減少したが、年間を通じて、身だしなみ指導を行う必要がある状態が続いた。2月に身だしなみ指導強化月間を設けたが、今後も教員全員で身だしなみ指導ができる機会を増やしていきたい。 一学期の携帯電話指導は、過去3年間と比べると減少しているが、各授業での注意や職員朝礼でアナウンスを継続して行い、減少していくようにしていく。 非行防止教室をNTTドコモに、交通安全教室はJAFに開催していただいた。 いじめに関する調査、いじめ関係長欠調査を実施した。その結果について、いじめ対策委員会を開催し、いじめ状況の共通理解を図った。 生徒会役員と部活動生徒が木津駅前クリーン活動に多く参加するなど、地域との連携を深めた。クリーン活動に対し、環境大臣より表彰をしていただいた。 仮入部期間を設定し新入生全員が部活動を体験できるように実施した。しかし、年度当初と比較すると全体の加入率は減少傾向にあり次年度さらなる対策を講じたい。 |
| | | | 登下校時を含め、学校生活全体を通じて、身だしなみが整った状態で過ごすことができるよう統一した指導を行う。 | 2 | | | |
| | | | 携帯電話やスマートフォンの使用ルールを遵守するよう、統一した指導を行う。 | 3 | | | |
| | 保護者や地域、関係機関と連携し、安心・安全な学校生活の構築を図る。 | 外部関係機関と連携を密にし、生徒の安全に留意した指導を行う。 | 3 | 3 | | | |
| | | | いじめの早期発見・早期解決といじめを許さない心の育成指導を行う。 | 3 | | | |
| 特別活動 | 規律ある集団生活の中で、生き生きとした教育活動を推進する。 | | 生徒会、クラス委員、部活動の校外外での奉仕活動等を通して、地域への連携を深めるとともに他者を思いやる心を育てる。 | 3 | 3 | 3 | |
| | | | 部活動に参加しやすい環境をつくり、一人ひとりが達成感・充実感を得られるようにする。 | 3 | | | |

| | | | | | | | | |
|-----------|-------|--|---|---|---|---|---|---|
| キャリア教育推進部 | 進路指導 | 進路希望を実現させる就職指導、進学指導体制を充実させる。 | 就職希望者に対する指導体制のさらなる充実及び強化を図り、希望者全員の内定を得る。 2年目を迎えた各学年の特別進学プログラムをチームを中心に各学年及び各教科と連携しながらより効果的に実施し、3年間を見据えた進学指導体制「守破離」の確立に向けた指導を行う。 進路シラバスを基に系統的な進路学習を実施し、また適切な情報提供を行い、生徒の進路意識をさらに向上させ、希望進路実現に向かう。 | 3 | | | | ・学年部と連携し、就職指導体制のさらなる充実及び強化を図ることができた。 就職内定率 100% 3/19現在 ・特別進学指導の手引きをもとに、学年団、各教科、他分掌と連携し各学年の特別進学指導をチームで実施することができた。 ・進路シラバスを基に年間を通しての進路LHR等を実施することができた。 |
| | 中高連携 | 本校の教育活動に興味・関心を持つ生徒に多く受験し入学してもらうために、中学校との連携をより強化する。 | 中学校訪問や中学校教員対象の説明会の実施、あるいは中学生対象の説明会や専門学科セミナーの実施により中学校との信頼関係を構築し、特に相楽エリアにおいて選ばれる学校を目指す。 | 3 | 3 | | | ・広報プロジェクトを中心に全校体制で、中学生募集に関する各種取組を実施することができた。 |
| | 広報活動 | 本校の特色ある教育活動を、中学校、地域社会、企業、大学へ広報する。 | 各分掌、教科、学科、部活動と連携して、ホームページを積極的に活用したリアルタイムな情報発信を行う。 | 3 | 3 | | 3 | ・4月から1月までに本校の魅力的な教育活動を部として130回HPにて発信することができた。 |
| | 普通科教育 | 普通科生徒の基礎学力育成と学習習慣を確立させる。 | 1年普通科の総合的な学習の時間において、基礎学力の育成及び学習習慣の確立を目指す。 | 3 | 3 | | | ・昨年度に引続き計画的に総合的な探究の時間の運営を行うことができた。 |
| 図書部 | 図書館活動 | 図書館での活動を通して、生徒の学力・人間力の向上を目指し、社会で通用する能力を身につけさせる。 | 生徒及び教職員の図書館資料や視聴覚教材の利用を促進する。 生徒の図書・視聴覚委員会の活動に積極的、主体的に取り組ませる。 HPを更新するなど、有効な広報活動を行う。 | 3 | | 3 | 3 | 生徒、教職員の図書館利用は好調で、利用を促進できた。教科とタイアップしながら生徒達に資料提供、情報提供できた。HP更新、図書館日より発行ができ、有効な広報活動ができた。視聴覚・図書委員会活動も生徒たちが主体的に取り組み、有意義に活動することができた。 |
| 保健部 | 健康・安全 | 清掃活動の充実を図り、他を思いやる心を育てる。 | 事務部と連携し、清掃道具の整備と充実に努める。清掃の要領を作成するなど生徒と教員がより効率的で清掃しやすい環境を整える。 | 3 | 3 | | | 清掃の要領を作成した。 各種検診はほぼ100%受診させることができた。 支援を要する生徒への対応を関係機関と連携し、生徒の合理的配慮に繋がった。 来室生徒と特別支援の増加から新しい体制の充実を努める。 |
| | | 生徒の健康・安全を守るとともに将来に繋がる取組を徹底する。 | 各種検診の全員受診を目指し、保健活動を充実させる。 | 3 | 3 | | 3 | |
| | | 要支援生徒に対する支援体制の充実を図り、生徒の着実な成長を目指す。 | 日常の生徒観察や学校適応推進会議、スクールカウンセラーを活用し、生徒理解に努める。 | 3 | 3 | | | |
| 農場部 | 農場経営 | GAP（農業生産工程管理）を基礎においた農場運営を行う。GLOBALGAPの継続認証を行う。 | 農場管理記録簿を全部門で記入し実習計画に応用する。 作業の安全を第一とし、そのための整理整頓を実施する。 リスクを共有し対処できるようにする。 | 3 | | 3 | 3 | 全部門で記録を行う体制が整備できた。 資材の整理整頓が適切にできている。 昨年度同様に外部機関との連携が図れた。 |
| | | 学科連携・地域連携・学校間連携をより充実させる。 | T.V.F講座・情報企画科連携の内容を充実させる。 大学・自治体をはじめ、他校種との学校連携を充実する。 | 3 | | 3 | | |
| 情報企画部 | 学科経営 | 「人間性豊かな職業人の育成」を理念とした諸活動を推進する。 | 生徒の能力を最大限に伸ばすために、学科・地域と連携した取り組みをさらに充実させ、情報企画科の特色と魅力をより明確にする。 「持続可能な社会」に活躍する人材を育成するために、社会の趨勢を見極めながら時代に合った商業教育を行うための、カリキュラムや指導計画を見直し改善する。 | 3 | | 3 | | ・生徒が教えるパソコン教室、中学生へのマナー講習会、全学年参加の社会人講師授業、インターンシップ等の取り組みによって、生徒の生きる力を向上させることができ、また、行政・企業・地域との連携活動を推進することができた。 ・学年、分掌との連携によって、生徒の進路実現に一定の成果をあげることができた。 |
| | | 商業科の専門性を生かした進路実現を支援する。 | 担任と連携してより進路計画を協議し、専門性を生かした進路実現を図る。 | 3 | 3 | | 3 | |
| | | 専門学科の魅力についてより広く認知 | 校外での説明会や地域に開かれたイベントの開催などによって、教 | 3 | 3 | | | |

| | | | | | | | | |
|-------|-------------|--|--|--|---|---|--|---|
| | | されるよう、広報活動の充実を図る。 | 員と生徒が協力してその魅力が伝わる広報活動を行う。 | | | | きた。 ・広報活動については、商業科で独自に中学校への訪問を行うなどして一定の成果をあげることができたが、学校公開の時期や方法に課題があり、Web等での情報発信も改善の必要がある。 | |
| 第一学年部 | 学校生活 | 授業規律を守り、授業を大切にすることで、基礎学力の定着を図る。 | 計画的に面談を実施し、生徒理解および保護者との連携を深める。 | 3 | 3 | 3 | 2学期に入り特定の生徒の授業態度が良くない、授業の雰囲気が良いという声を生徒や教科担当者から聞くことが多くなってきたが、保護者を含めた面談を積極的に行うなどし、学年全体の雰囲気が悪い方に流れないように努めた。 校外学習や学校祭など、学校行事に積極的に取り組むことができた。 | |
| | | 身だしなみの徹底、挨拶や時間を守ることを推奨し、社会性豊かな集団を育成する。 | 授業を大切にすることで、学習環境を整え、基礎学力の定着を図る。 | 3 | 3 | | | |
| | | 部活動および学校行事に積極的に参加する姿勢を養う。 | 部活動参加を積極的に推進する。 校外学習・文化祭・体育祭等の行事において、主体的計画のもと、協力して取り組ませる。 | 3 4 | 3 | | | |
| 第二学年部 | 学校生活 | 学習習慣を確立し、基礎学力の定着を図る。 | 授業を大切にすることで、学習習慣と基礎学力の定着を図る。 | 3 | 3 | 3 | 担任の先生を中心とした生徒との丁寧な関わりや教科担当との連携を密にした結果、日増しに落ち着いて学校生活を送ることができた。大多数の生徒が学習・学校行事・部活動などに前向きに取り組んでいる。学校祭や研修旅行に取り組む姿勢は概ね良かった。生徒同士の連帯が見られる一方、誤解からくる生徒同士のもめごとが多く、丁寧なコミュニケーションの大切さを継続して指導をした。 | |
| | | 進路に対する意識を高め、自ら目標を定める。 | 進路実現のために、担任からの日常的な進路指導やキャリア教育推進部との連携を図り、個別に面談を定期的に行い、自ら進路目標を切り開く力を育てる。 | 3 | 3 | | | |
| | | 思いやりの心を育み、人権意識を高め、社会性豊かな集団の育成を図る。 | 身だしなみを整え、日頃から正しい言葉遣いを心がけ、落ち着いた気持ちで学校生活を送れるようにする。 充実した研修旅行の実現に向け、人権学習や平和学習などをはじめとした事前学習・事後学習を計画的に行う。 | 3 3 | 3 | | | |
| 第三学年部 | 学校生活 | 進路実現と社会性豊かな資質を身につけさせる。 | 生徒の希望進路実現にむけ、保護者との密接な連携のもと進路指導をすすめる。 地域に愛される高校の一員として、身だしなみを整え、相応しい言葉遣いなど礼節が養われるようにする。 学校行事や清掃活動など日常の活動を通して、自他を大切にすることで人権感覚を育成する。 | 3 2 3 | 3 | 3 | 希望進路の実現にむけて、生徒および保護者との連携を密にすることを心がけ、指導をすすめた。文化祭や体育祭をはじめ学校行事については、学級および学年で団結して全体的に良い活動ができた。 | |
| | | 施設設備管理 | 安全安心な学校作り | 施設担当者・技術担当者を中心に施設・設備の点検を実施し、危険箇所等には、早急に対応する。 | 3 | | | 3 |
| | | 北校舎長寿命化事業 | 各分掌、本庁担当課と連携し、計画的に有意義な改修を実施する。 | 2 | 2 | | | |
| 事務部 | 会計管理 | 効果的な予算執行と適切な会計事務処理 | 職員相互のチェック・確認体制の定着を図る。 | 3 | 3 | 3 | ・平成30年9月の台風21号に係る災害復旧工事が屋上防水シートの補修も含めすべて完了し、懸念事項が解消した。今後も施設設備の点検を実施し、危険箇所等には早急に対応していきたい。 ・北校舎長寿命化工事は、順調に進んでいる。引き続き、工事業者、本庁所管課と話し合いを重ね、有意義な改修となるよう努める。 ・技術職員を中心に校内巡回を行い、危険箇所等の発見、節水節電等に努めた。 ・ゴミは、今年度は北校舎長寿命化工事に伴い増加傾向にあったが、来年度はさらに削減に努めたい。 | |
| | 省エネ・ゴミ削減と清掃 | 節電対策の推進 | 校内を巡回し、不必要な点灯箇所の電灯を消す等節電に努める。 | 3 | 3 | | | |
| | | 廃棄物量の削減と清掃 | 清掃活動を自己研鑽の中心に位置づけるという短期経営目標を踏まえ、保健部と連携し、ゴミの分別・節減に努めるとともに、自らも積極的に清掃活動を実施し、生徒の模範となるようにする。 | 3 | 3 | | | |

| | |
|------------------------|--|
| <p>学校関係者評価委員会による評価</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○先生方の不断の努力の成果で、年々授業態度も良くなり、落ち着いた学校となってきている。今や「魅力ある学校」となった木津高校ですが、落ち着いていると実感できるのは、愛想良く挨拶をして、声をかけてくれる生徒が多いことや、授業中に横を向いて私語をする生徒がいなくなってきたこと、また廊下や教室もきれいで清掃が行き届いているように感じることです。 ○ABCマートや木津駅周辺のクリーン活動はすっかり地域に定着しました。販売実習や早朝から清掃活動する生徒さんを見ていると、木津高校生は生きる力がみなぎっているように感じます。 ○先生方の日々の努力に感謝していますが、部活動の加入率が目標の70%に到達していないことについては、今後も続けて努力して欲しいと思います。また、入学してくる生徒さんの期待値が大きいと、2年生なってからアンケート評価が下がり気味になることもあると思います。その点についても、入学して、さらに進級して、新たな目標を持つことで改善していただけたらうれしく思います。 ○新型コロナウイルス感染症予防のために、例年とは違った卒業式になりましたが、学校全体で卒業生をお祝いしようとする雰囲気がよく伝わってきました。卒業生は年々落ち着きを増し、整然とした様子は学校の現状をしっかりと反映しているように感じました。 |
| <p>次年度のに向けた改善の方向性</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○短期の経営計画に基づき、部活動の活性化を図るために、部活動加入率70%を実現する。 ○授業改善は規律ある学校生活の第一歩と位置づけ、「わかる授業」、「参加意欲の湧く工夫ある授業」を実現する。 ○特別進学プログラム「守・破・離」の完成学年にあたり、生徒の望む進路を実現するために、日頃の授業、土曜学習、担任の主導する進路面談等を充実させる。 ○正しい制服の着こなしが進路決定に結びつき、学校への帰属意識を高めることから、今後も充実した身だしなみ指導を行う。 ○現状に満足せず、木津高校に魅力を感じることをできるような広報活動を積極的に展開する。 ○新型コロナウイルス感染症への対応のため、また積極的な次世代教育のために、積極的なICT環境作りを進める。 |